
人喰い鬼

春日小雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人喰い鬼

【Nコード】

N7666G

【作者名】

春日小雪

【あらすじ】

夕闇迫る冬の午後、”招かざる客”が来た。旅館の主人は動揺した。旅館裏にある物置の、危険な”隠しもの”を思い出して。

冬のある日、山奥の旅館（といっても、ただのボロ屋敷だが）に、男が訪れた。

男は、自分は旅の者だと名乗った。

旅館の主人は困り果てた。

なにせ、客などここ数年訪れた事がなかったのだ。

ボイラーはすっかり錆び付き、客室にはカビが生える始末だ。

しかし、ここでこの男を追い返すと、男は外で凍死することになってしまう。

それで警察などに来られたら、もうおしまいだ。

何故、今日に限って…？

まさかバレたのか？

…いや、それはありえない。

大丈夫だ。

何も臆する事はない。

主人はしぶしぶ男を中へ招き入れた。

男を一番豪華で汚れの少ない部屋へ通した。

「旦那様、風呂を沸かしてまいります。

その間、どうぞごゆるりとなさってください」

主人は男がわずかに頷くのを認めると、そそくさと襖を閉めた。

そして、ゆっくりと息を吐いた。

――大丈夫だ。

そう自分に言い聞かせ、主人は風呂を沸かせるために勝手口を開い

た。

そこから少し先にある小さな物置をちらりと確認し、薪を取りに物置とは反対側へと向かった。

「御主人、この辺で人喰い鬼が現れるという噂を聞いたのだが、何か心当たりはあるか？」

男を風呂に呼びに行くと、いきなりそう聞かれた。

主人は、心臓が飛び上がりそうになるのを堪えながら

「さあ： 私は見たことございませんあ。

しよせんは人の噂話でございます。

どうぞ安心なさってください」

そう言い、男を風呂へと案内した。

――なるほど、人喰い鬼か。

男が風呂に入っている間、主人はこっそりと物置へと向かった。

そして、まだ腐る手前の”肉”を手にとった。

――埋めてしまおうかと思っていたが、確かに、食べてしまえば足もつかねえ。

そしてそれを持って、物置を出た。

勝手口に足をかけ、ふと辺りを見回した。

――大丈夫。

今日を乗り切れば、きっと全ては闇へと葬られる。

主人はもう一度周囲を見回し、中へと入った。

「御主人」

主人が台所で”肉”を調理していると、男に呼ばれた。

「な、なんでしょう」

少し慌てた主人を、男は気に留めた様子もない。

「いや、飯はまだかと思って。」

邪魔して申し訳ない」

男がそう言うのと、主人はほっとした様子で

「それなら、今用意しております。

お客様など久しいので、申し訳ありませんが、自分の分しか準備を
しておりますでした。

あとしばらくお待ちください」

男はそれを聞くと、浴衣に手を入れ、腹を掻きながら部屋に戻った。

主人は大きな溜息をつき、”肉”の調理にとりかかった。

「お客様、大変お待たせしました」

そう言って、主人は男の前に”肉”を並べた。

それは鍋でじっくりと煮込まれ、箸で切ることができるほど柔らか
くなっていた。

「ほう： うまそうだな。

御主人、あんたが作ったのか？」

箸を手に取り、男が尋ねる。

「カミさんに逃げられちゃったもので」

主人は苦々しく言って、苦笑した。

「金の切れ目は、ってやつですかねえ」

男はそれを聞きながら、”肉”を口に入れた。

「ふむ、うまい。

いや、たいしたもんだ。」

主人はそれを聞き、安堵の溜息をもらした。

「変わった味付けをしているなあ。

御主人、これは何の肉だい？」

その問いに対して、主人はただにやりとだけ笑った。

次の日、男は宿を後にした。

主人は昨日の残りの”肉”を食べた。

――残った”肉”は、薫製か煮干しにでもしようか。
物置の中を思い出しながら、主人はそう考えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7666g/>

人喰い鬼

2010年11月16日08時35分発行